

那珂川市の指定文化財①

- | | |
|-----------|--|
| 1 名 称 | <small>あんとかおつかこふん</small>
安徳大塚古墳 |
| 2 種 類・種 別 | 国指定・史跡 |
| 3 所 在 地 | 福岡県那珂川市大字安徳 140 - 13 外 15 筆 |
| 4 指 定 面 積 | 14616.96 m ² (令和 3 年 3 月 1 日現在) |
| 5 指定年月日 | 平成 28 年 3 月 7 日・指定(文部科学省告示第 48 号)
令和 3 年 3 月 26 日・追加指定(文部科学省告示第 49 号) |

6 調査の概要

安徳大塚古墳は昭和 45 年に周辺で大規模な宅地造成(現在の王塚台)の計画がなされ、その際(昭和 46 年)、福岡県により確認調査が実施された。まず墳丘測量が行われ、後円部の盗掘坑部分の精査と前方部から濠にかけてトレンチを設定し調査が行われた。調査の結果、墳丘規模が墳丘主軸長 64m、全長(周溝を含めて)81m、後円部径 35m、後円部高 6m、前方部径 20m、前方部高 2mを測る前方後円墳であることが判明した。トレンチ調査から人頭大の川原石を使用した葺石を有しており、3～4 段の帯状に葺かれていることがわかった。盗掘坑の精査から主体部は礫床粘土槨であった可能性が高いことが判明した。また、古墳の時期は墳形・礫床粘土槨・埴輪等から判断して 4 世紀後半と思われる。とりわけ、よく旧態をとどめ、この時期の古墳としては県内でも特に均整のとれた墳形を残した前方後円墳である。

7 遺跡の概要と学術的評価

本古墳は当時の調査の結果、後円部は一部盗掘を受けていたが、それでも内部構造は残存する諸特徴から礫床粘土槨であることが明らかとなった。このことは従来、外形から判断されていた所見と矛盾しないもので、墳丘を巡っているものと思われる円筒埴輪、壺形埴輪もほぼ同一の年代を示し、4 世紀後半の位置づけができる。とりわけ前方部裾部から発見された壺形埴輪は近隣の老司古墳発見の壺形埴輪よりも古い様相をもっている。したがって、壺形埴輪と共伴した円筒埴輪も同様のことが考えられ、九州における円筒埴輪の変遷を考えると重要な資料といえる。また、周辺にあり、すでに消滅している炭焼古墳群、油田古墳群、そして安徳大塚古墳と、そこには連続的に発展していったこの地域の族長の胎動していく姿が見て取れる。このことは国家の形成へと大きく時代が動揺していく時期の実態を連続的に究明できる希少な地域であるともいえる。以上のように、本古墳はこの地域における古墳時代前期の典型的な前方後円墳であり、後円部に一部盗掘による溝があるほかは、よく旧態をとどめており、県内でも特に均整のとれた墳形を残す古墳といえる。よって、古墳文化の全国伝播の実態及びわが国における古代国家形成期の諸様相を理解する上で欠くことのできない重要な古墳である。さらに、台地下には「日本書紀」に記載のある古代の人工水路である裂田溝が流れており、水路から斜面をへて台地上の本古墳にいたるまで当時の地形を残しており、斜面部分を含めた景観の保護も重要である。